

令和 8 年 6 月 30 日

物流・自動車局技術・環境政策課

車両基準・国際課

自動運転・AI など先進技術で交通事故ゼロへ ～今後の車両安全のあり方のとりまとめ～

我が国における交通事故は着実に減少してきましたが、近年の減少率は低下しています。こうした中、交通事故の更なる削減を図るとともに、移動の足の確保などその他社会課題に対応するという観点から、今般、自動運転・AI など先進技術の活用を中心とする「今後の車両安全のあり方」が報告書としてとりまとめられました。

国土交通省においては、本報告書に基づき、車両安全対策の更なる深化を図ることにより、世界一安全な道路交通、ひいては交通事故のない社会の実現に向けて取り組んでまいります。

1. 経緯

国土交通省では、「第 12 次交通安全基本計画」（令和 8 年 3 月中央交通安全対策会議決定）を踏まえ、今後の車両安全のあり方を検討するため、交通政策審議会自動車部会の下に技術安全ワーキンググループを設置して審議を重ねてきたところ、今般、報告書がとりまとめられた。

2. 報告書の概要

【主要施策】

- 高齢者や子ども、交通弱者を守るため、自動運転・AI を活用した高度な運転支援機能、安全運転サポート車 (Ver. 2.0)、通信技術との連携などを推進する

死亡事故の
96%は運転者の違反に起因

AIを活用した高度な運転支援機能を有する車両^{*}の性能評価制度の創設

メーカーにおける開発・普及を促進、移動手段の不足等その他の社会課題の解決にも資する自動運転車両の認知度と社会受容性を高める



* いわゆるL2++車両（AIを活用し一般道を含め自律走行が可能な高度な運転自動化システム等を搭載したL2車両（運転者が周辺監視をし、縦・横方向の運転支援機能を有するもの）

死亡事故の
34%は高齢運転者によるもの

安全運転サポート車 (Ver. 2.0) の推進

現行の装置の高度化、高齢運転者の事故削減に資する装置を新たに追加する



依然として、次代を担う
子どもの痛ましい事故が発生

先読み運転や通信技術 (V2X) と連携した運転支援技術

先読み運転機能、自転車と道路インフラ、他の交通参加者等との通信技術 (V2X) を活用した運転支援機能の技術開発促進策等を検討する

このほか、致死率の高い大型車・二輪車や今後増加が見込まれる小型モビリティの安全対策、ユーザーへの正しい情報の伝達に係る取組、使用過程車対策等を含む

【交通事故の削減目標】 ※前回報告書（令和 3 年 6 月）の目標を維持

- 令和 12 年（2030 年）までに、車両安全対策により、令和 2 年（2020 年）比で、30 日以内交通事故死者数を 1,200 人削減及び重傷者数を 11,000 人削減

（お問い合わせ先）

物流・自動車局技術・環境政策課 菊池、宗形 代表：03-5253-8111（内線 42254）

直通：03-5253-8591

車両基準・国際課 松坂、山中 代表：03-5253-8111（内線 42524）

直通：03-5253-8602